

Title	『目的は手段を正しくす』
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.1, No.3 (1922. 5) ,p.30(380)- 30(380)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19220500-0030

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『目的は手段を正しくす』

耶穌會では目的は手段を擇ばずを教へて居るとは人口に膾炙した有名な言ひ傳へてあつてチイグレルの『獨逸風潮史』第七版の四一〇頁にもカマル、マルクスをして *sein Fanatismus in jesuitischer Weise jedes Mittel erlaubt erscheinen liess, das zum Ziele fuhren konnte* といふてある。併し是はマルクスは兎に角耶穌會を誣るの甚しいもので Gerard 師は *The End Justifies the Means* の題する小著で耶穌會の爲に辯じて居る。抑もこの譏誣の濫觴は *Encyclopedia Britannica* の寄稿者 Dr. Littledale の *The Jesuits* の著者 Mr. Cartwright 等を共に耶穌會を攻撃して一七六二年に Wagemann 師の公にせる *Synopsis Theological Moralis* の *Index* に *Finis determinat probitatem actus* を述べてあるを云ふた時からである。然るにこの書は珍本でシエラアド師がミンヘン王宮文庫の藏本に就て調査した處に従へば第一 *Probitatem* ではなくて *moralitatem* であつて、第二本文で無く卷末の索引に出て居るのみであるとのことである。隨てシエラアド師の云へるが如く『是れ善かれ悪しかれ將た善惡の關係なく一の教を説いたのでは無くして教を説ける本文の場所を讀者に示したのでその本文に説ける處は即ち曰く行爲の善惡は主として三點に就て之を定む可し、一客體即ち手段、二、目的 三、事情是なり。行爲の善ならんが爲には三點をもすべて善なるを要す、行爲の惡となるにはその一點の惡しきにて足る是れ *Bonum est ex integra causa, in Jure ex singularis defectibus* の *Index* 原則に由る』とあるの *Probitatem* デュレルは多分孫引をしてかゝる誤解に陥つたのであらう。